

平成 27 年 4 月 24 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 27 年 4 月 24 日 (金曜日)

午後 4 時 00 分から午後 4 時 50 分まで

2 場 所 さいわいプラザ 4 階 教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生      委 員 羽賀 友信      委 員 中村 美和  
委 員 青柳 由美子      教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	若月 和浩
教育総務課長	武樋 正隆	教育施設課長	中村 仁
学務課長	茂田井裕子	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	波多 文子	保育課長	大野 宏
中央公民館長	佐藤 実	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹
学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	水内 智憲	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	濱 悠子		

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 35 号	専決処理について（規則の一部改正について）
3	第 36 号	附属機関委員の委嘱について

## 7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会 4 月定例会を開会する。新しい教育委員会制度がスタートし、先般、市長と懇談会を行った。教育委員会の各部署との理念の統合について真剣に考えてみてほしいというお話があり、肝に銘じなければならぬと感じた。今年一年間、教育委員として精一杯頑張りたいと思う。日程に入る前に、佐藤教育部長より発言を求められているので、許可する。

（佐藤教育部長） この度、4 月 1 日付の人事異動で昇任と転任があった。茂田井学務課長と、大野保育課長から、自己紹介を兼ねて一言いただく。

（茂田井学務課長） これまでも、教育総務課の課長補佐として皆様に大変お世話になっていた。これからも、立場は変わるが、学校の規模適正化、食物アレルギー等の新たな課題解決に向けて、精一杯頑張る所存であるので、よろしく願いしたい。

（大野保育課長） 昨年度までは、財務部の管財課に在籍していた。平成 24 年度まで保育課に在籍していた経験もあり、また引き続きよろしく願いしたい。

---

### 日程第 1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、中村委員及び加藤委員を指名する。

---

日程第2 議案第35号 専決処理について（規則の一部改正について）

（大橋委員長） 日程第2 議案第35号 専決処理について（規則の一部改正について）議題とする。事務局に説明を求める。

（波多子ども家庭課長） 専決第2号 規則の一部改正について、長岡市地域子育て支援センター条例施行規則の一部を改正する規則についてである。具体的な内容としては、長岡市子育て支援センター川口すこやかなの開館時間を午前8時30分から午後5時までにするというものである。改正前は、午前8時30分から午後5時15分であったものを15分短縮した。改正理由としては、3月の定例会で審議いただいた、期間雇用の臨時保育士について、一般職非常勤職員に変更し、勤務時間を7時間45分から、7時間30分にしたことに伴い、川口に勤務している職員についてもこれを適用する。現在の利用実態を調べたところ、午後5時までとなっても住民サービスの低下は無いという結論となったことから、今回の改正となった。4月1日から適用となるため、専決処理とした。

（大橋委員長） 質疑・意見はないか。

（大橋委員長） 無いようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

（大橋委員長） 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

---

日程第3 議案第36号 附属機関委員の委嘱について

（大橋委員長） 日程第3 附属機関委員の委嘱について議題とする。事務局に説明を求める。

（武樋教育総務課長） 3つの附属機関について、4月1日付の学校長の異動に伴う委員委嘱を行う。長岡市図書館協議会委員については、これまでも長岡大手高校の校長にお願いしていたが、異動となったため交替するものである。長岡市栃尾美術館協議会委員については、校長会より推薦されたものである。長岡市スポーツ推進審議会委員については、小学校体育連盟からの推薦である。いずれも、5月1日からの委嘱である。

（大橋委員長） 質疑、意見はあるか。

(大橋委員長) 無いようなので、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 本日の議案の審議は終了する。次に協議報告事項に入る。協議事項として、平成 26 年度 教育に関する事務の点検及び評価方法について、事務局の説明を求める。

(武樋総務課長) 平成 26 年度 教育に関する事務の点検及び評価方針について説明する。これは、毎年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会が、前年度に実施した教育に関する事務の管理執行状況の点検、評価を行うものである。平成 26 年度の教育委員会会議の開催状況や、長岡市教育振興基本計画の基本施策について、点検、評価を行う。スケジュールについては、5 月 18 日に第一回、7 月 10 日に第二回、7 月 29 日に第三回委員会を予定している。評価委員の方々は、昨年度に引き続き、結城委員長、高野副委員長、江口委員、青柳委員である。教育委員の皆様には、7 月 10 日の第二回の事務評価委員会に出席いただき、評価委員と意見交換をしていただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 昨年経験させていただいているが、委員のメンバーは非常に積極的で、指摘も鋭く、大変勉強になった。今年度も、実のある会にしていきたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、報告事項として平成 27 年度 長岡市成人式について、事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) 今年度の長岡市成人式の実施予定は資料の通りであるが、教育委員の皆様には、出席をお願いしている。調整中となっている、市長・副市長の

日程も決定したので、申し上げる。越路地域が磯田副市長、栃尾地域が市長、川口地域が磯田副市長、小国地域が高橋地域政策監である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 資料をみると、子どもの数は昨年より増えているようだ。

(波多子ども家庭課長) 今年は昨年よりも、対象者が増えている。

(若月子育て支援部長) 若干だが、この年だけ子どもが増えている。しかしここから減少しているのが現状である。

(加藤教育長) 新しい議員となるので、案内漏れのないよう、よろしく願いたい。

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 26 年度 長岡市公立保育園『わくわく おてつだいチャレンジ』『パクパクお弁当デー』取り組み報告について事務局の説明を求める。

(大野保育課長) 『わくわく お手伝いチャレンジ』は、健康課の食育講座と連携して、親子の食を通じたコミュニケーションや、親子で得た知識を実践するための取り組みとして行ったものである。実践のまとめとして、『パクパクお弁当デー』で、親子でお弁当作りに取り組んでいる。内容については、食育講座を年 5 回行い、それと連携して『わくわく お手伝いチャレンジ』を家庭で行ってもらうものである。最終的には、お弁当を作って保育園に持って来てもらうことを目指している。結果としては、公立保育園 7 園の年長児・年中児とその保護者を対象に実施したが、いきなりお弁当というのはハードルが高いため、段階的に、『空弁当デー』、『おにぎりデー』を設けた。4 園で実施した空弁当デーは、家でのお手伝いとして、お弁当を洗ってみようということで、園児が洗った空弁当を家庭から持参して、そこに給食を詰めてみるというものである。おにぎりデーは、家でのお手伝いとして、米をとぎ、炊いたお米でおにぎりを作ってみようというものである。お手伝いをしつつ、保育園ではラップを使用しておにぎりをつくる取組みを 2 園で実施した。『パクパクお弁当デー』は、お手伝いとして、これまでのチャレンジの集大成として、

何かひとつでも自分でお弁当に詰めて保育園に持参しようという取組みで、2園で実施した。保護者からは、朝の忙しい時間帯にお弁当作りは大変だったという声もあったが、子ども達が楽しみながら実践する姿に感心したという声が非常に多く、概ね好評であった。最終的にお弁当とまでは行かなくても、食への関心を育むことができたのではないかと考えている。平成27年度も取組みを継続していく。

(波多子ども家庭課長) 大野保育課長から説明があった健康課と保育課が連携して行った事業について、更に子ども家庭課が連携し、配布した『家庭でワクワクお手伝い通信』に掲載した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 私はこれまでも食育に関わってきたが、よく誤解されるのが、3・1・2弁当についてである。弁当の話だと保護者は思いがちだが、食全体のバランスが大事だということを繰り返し伝えてほしい。

(若月子育て支援部長) 健康課の栄養士から導入段階での説明をしっかりともらうこととする。

(加藤教育長) こういう事業の際に、ぜひとも訪問してみたい。また、家庭でワクワクお手伝い通信に掲載している写真のお弁当は、一人分のお弁当なのか。

(若月子育て支援部長) 何人かのものを寄せて写真を撮ったものである。

(加藤教育長) あまりにも立派なものを掲載すると保護者にとってもプレッシャーとなるので、白ご飯にふりかけなど、無理の無いものを掲載しても良いのではないか。

(若月子育て支援部長) みしま北保育園と、栃尾白山保育園は保護者の方も熱心で、どの子の弁当をみても立派なものだったので、取り立てて立派なお弁当を写真に撮ったというものではない。

(青柳委員) 今はキャラ弁なども流行していて、すごいものも多い。

(若月子育て支援部長) この2園ではキャラ弁を作っている家はなかった。3・1・2の導入をしっかりとっているなので、皆さんがしっかりとした弁当を作ってきたのだ

と思う。

(中村委員) この対象となっている園は、今年度も変わらないのか。

(大野保育課長) 希望を取り、他の園でも実施していく。5園程度を予定している。

平成26年度に実施した園についても、健康課の講座は無いが、保育士や保育課の栄養士が指導していく。

(青柳委員) 一度やると、もう一度やりたいという声もあるのではないかと。

(大野保育課長) 熱心な園だと、そういう声上がるようだ。

(中村委員) 園の中で自主的にやろうと計画され、食育は家庭が基本であるという意識を再確認してもらえたら良いと思う。

(若月子育て支援部長) この事業の対象となった園以外でも、自分たちでできる範囲内でやっていこうということで、保護者に働きかけているということをつけ加える。

(青柳委員) テレビを見ながら食事をする、家族の会話も無く、何を口に入れたのか分からないまま食事が進むというような子どももいると聞くので、保護者からの「ほんの少しの手伝いで食べるときの気持ちが全く違う」という感想が、とても嬉しい。

(大橋委員長) 続いて、長岡市の切れ目のない子育て支援について事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) 従来から、母子手帳の交付から赤ちゃん訪問など行ってきたが、今回、産後ケアコーディネーター職員を新たに配置した。産前・産後寄り添い支援事業を新規に始める。これまでも訪問はしてきたが、もう一步踏み込んで、母子保健推進員を中心に、お母さんの話し相手になるということで支援をしていく。母子保健推進員に希望をとったところ、25名ほど手を挙げてもらった。産後ケア訪問事業も新規事業である。これまでは、支援が必要な家庭に限ってきたため、助産師や専門職の訪問が行き届いていなかったが、乳房ケアや沐浴を無料で行き、もう一步踏み込んだ子育て支援をしていく。産後デイケア事業は、産後のケアルーム

ということで、産後うつまでは行かないが、気分が沈んだり、孤独を感じたときにお母さんが駆け込むことのできる場所を作る。マンションの1室を借りて、専門職が相談にのったり、場合によっては、寝具もあるので赤ちゃんを預かって休んでもらう場にもなるものである。場所については、三和保育園の近くにあるマンションフジの1階を借りることができた。5月下旬には開設したいと考えている。ままのまカフェについては、子育ての駅3か所で行っていたが、ケアルームに行くほどではないが、仲間作りをしたり、子どものことを気にしないでお茶を飲んだりしたいというようなときに利用してもらうものに拡充する。場所も、子育ての駅4か所、地域の母子保健推進員に声をかけたところ、15地域から手が上がり、それぞれの地域でままのまカフェを実施する。子どもも母子保健推進員に任せて、おしゃべりに集中してもらうことができるように環境を整える。これまで長岡市がやってきたことも含め、長岡市の切れ目のない子育て支援、聞きなれない言葉であるが、フィンランドの言葉で「ネウボラ」というものがあり、他県でも最近良く取り上げられている。長岡市版ネウボラの特徴として、医療スタッフに加えて、母子保健推進員が中核となって活躍しているということで、今後もPRを行っていく。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 乳児家庭全戸訪問事業があるが、訪問しても拒否されるような家もあると思うが、どの位あるものなのか。

(波多子ども家庭課長) はっきりした数値はわからないが、訪問しても会ってもらえなかったなどの話はよく聞く。チェックされているように感じて、嫌な気持ちになる方もいるようだ。

(加藤教育長) 小中学校なども、不登校や引きこもりなどで、様々な機関の人間が訪ねてもうまくいかないというのは多々あることである。

(波多子ども家庭課長) もっと柔らかい感じで、入っていくよう、うまくやっていきたいと考えている。

(中村委員) 連絡をとって面会することが、なかなか難しい方もいるのだろうが、

受け入れてくれて、お話ししてくれる方の方が圧倒的に多い。拒否するような方をどうにかして懐柔するのが課題であろう。

(波多子ども家庭課長) 今回配置した産後ケアコーディネーターが、産前から関係性を作っていくようにしたい。

(加藤教育長) 一般市民は、デイケアや、ケアルーム、ままのまカフェなど、内容がわからない人がほとんどだと思う。産後ケアルームは、どんなことができるのか、ままのまカフェなら、誰でも立ち寄っておしゃべり等ができる場所であるというのを書いた方がいいと思う。「ネウボラ」などの名称もわかりにくいように感じる。

(羽賀委員) 「ネウボラ」とは、日本語で何と訳すのか。

(若月子育て支援部長) 簡単に言えば、フィンランド語で「相談できる場所」である。厚生労働省でもこの言葉が使われている。まだ、一般化していないので、一般の方々には分からないかもしれない。

(加藤教育長) 厚生労働省職員が、海外留学先で勉強してきたことを使ったりするのだろう。定着までは時間がかかるのではないか。

(若月子育て支援部長) 松戸市が、先進的に取り組んでおり、関東ではある程度の認知度がある。デイケアルームはだいたい、産婦人科の病棟に併設されているものが多く、医療的ケアが中心となっている。しかし、それだけではなく、精神的な支援を必要とするお母さん方も多いのではないかとということで、今回長岡市ではデイケアルームをマンションの1室に設けた。マンションであれば、匿名性も保たれるのではないかと考えた。子ども家庭課からも近く、閑静な場所で、駐車場も広くとれる。また、準備が整い次第、お知らせさせていただきたい。

(青柳委員) 『～相談所』と書いてあると行きにくくなるのではないか。

(若月子育て支援部長) 了解した。

(中村委員) ひとつ嬉しい話があったので報告する。先日、ままのまカフェが実施され、参加する機会があった。そこに、関東から転居してきた親子がいた。2週間程前に引越してきてから、あまり人と話せていなかったもので、このようにみんなで

おしゃべりするのは久しぶりだと、大変喜んでいました。ままのまカフェをどこで知ったのか聞いたところ、アオーレで聞いてきたとのことだった。アオーレの職員にもきちんと周知されているのだと思った。また、私の地域の自主育児サークルが翌日にあり、近所にお住まいだったので、育児サークルについて話したところ、そこにも来てくれて、輪が広がった。連携できていることも嬉しかったし、なかなか人と話す機会のなかったということだったので、そのお母さんにとっても良かったのではないかと感じた。

(羽賀委員) 教育委員会にいと、どうしてもクレームに目がいきがちだが、巷の評価は意外にも高い。他の街から来た方は、この街はすごいと言ってくれる。この意見は、成果として拾うべきであって、それは仕事をする職員の励みになるだろうし、好意的な声についても、データとして客観的に提供していくことも必要だと思う。

(大橋委員長) 次に、平成 26 年度 第 2 回長岡市スポーツ推進審議会会議報告について事務局の説明を求める。

(川上スポーツ振興課長) 平成 26 年度から、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組みを始めた。引き続き、本市から、東京オリンピック・パラリンピックに出場するような選手を輩出できるように、併せて、子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず、生涯スポーツ活動に参加する市民の拡大を図っていく。これらの活動拠点となる、体育施設の整備についても、安全かつ快適な活動環境を提供できるように、整備に努めて行くものである。次に新規・主な事業について説明する。市民スポーツ活動の充実については、平成 27 年度においても、スポーツ推進委員等と連携して、スポーツ活動の振興に努めていく。日頃地域で活動するスポーツ愛好者間の交流と発表の場として、12 種目について、地域スポーツ交流大会を開催する。総合型地域スポーツクラブの活動支援としては、今年 2 月に、支所地域では 5 地域目となる、三島スポーツクラブが設立された。これらクラブの活動支援のほか、新たに設置を検討している支所地域に対する支援として、エ

リアアドバイザー 1 名をスポーツ協会に配置し、クラブ開設に向けた支援を行っていく。アオーレ長岡「アイススケートリンク」活用事業については、合併 10 周年記念事業として、アオーレのアリーナ内に特設のスケートリンクを設置し、子ども達をはじめとする市民が、プロスケーターの技を間近に見て感動体験をする、また、プロスケーターとの交流を通して、アイススポーツに親しむことを目的として開催するものである。7 月 11、12 日に NST 主催のアイススケートショーを開催し、翌 13 日から 28 日まで、アイスリンクの有料一般開放を行う。期間内には、市内小学校を招待した、体験教室なども行う予定である。競技スポーツの振興については、冒頭でもお話したが、2020 年東京オリンピック等開催に向け、競泳・飛び込みなど、全国ランキング上位選手への指導支援、ランキング上位まであと一步の選手をはじめ、8 種目の指定選手への支援を行い、本市から全国トップの世界レベルで活躍する選手の輩出を目指すものである。同時に、障害者スポーツの振興にも力を入れていく。平成 27 年度には、長岡市で初めてとなる障害者スポーツ指導員養成講習会を開催し、愛好者層の拡大、競技者層の育成を見据えた、担い手育成を行うこととする。生涯スポーツ・競技力の向上の両面の大事な土台作りの時期にある子ども達のために、全国・世界で活躍するトップアスリートの一流の技を間近に見て、直接学ぶ機会を提供し、子ども達が感動や夢を育み、高い目標を持って取り組む姿勢を養うことにつなげるため、トップアスリート招聘事業を引き続き実施していく。詳細等、未定のところもあるが、今年度は、サッカー・テニス・陸上などの種目で、ジュニア選手向けのクリニックや、市民向けのトークショーを開催し、ジュニア競技力の向上、市民のスポーツ機運の醸成に努めていく。スポーツ施設の計画的な整備は、ニュータウン運動公園整備が、第 2 期計画に入ったところである。ソフトボール場、野球場整備を行う予定であるが、まず、ソフトボール場 2 面を整備し、引き続き野球場 2 面を整備する計画である。また、陸上競技場の再公認のための整備を行っていく。極力オンシーズンを避け、10 月 5 日頃から、翌年 5 月まで、トラックの舗装改修を行う。このほか、市内各施設の改修整備を行っていくが、利用者

の安全に十分に配慮しながら、計画的な改修等整備に努める。

(大橋委員長) 質疑、意見はあるか。

(加藤教育長) 施設の整備に関してだが、屋外のスケートボード場とはどこにあるのか。

(川上スポーツ振興課長) スケートボード場というのは、現在無く、市長への手紙などでも愛好者から設置の要望が多く来ている。なかなか専用施設をつくるのは難しいが、夏場、市営スキー場の駐車場に多くの空きスペースがあるため、舗装面の手直しをし、そこで活動を始めてもらおうというものである。

(大橋委員長) 平成 16、17 年頃に、コミュニティーセンターをスタートして、青葉台地区はその第 1 号の指定を受けた地区であり、先進的に取り組んでいる。地区の大会に積極的に参加することを大事にしているのが大変良い。これからも、是非大事にしてもらいたい。

(川上スポーツ振興課長) 3月24日に、平成26年度 第2回長岡市スポーツ推進審議会を行った。その会議経過について報告する。出席したスポーツ推進審議会委員は15名であった。会議内容としては、平成27年度のスポーツ振興事業計画は、先ほど説明した内容をお話した。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた競技力向上委員会の報告を行った。当該委員会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた本市の競技力向上事業を実効性のあるものにするために、専門的かつ、客観的見地から助言・提言をいただくという主旨で、26年度から、学識・経験者や本市出身のオリンピック、障がい者スポーツ推進団体関係者など、7名からなる委員会を設置したものである。当日は、平成27年度に行う8種目の指定選手への支援取組計画などについて、承認いただいた。その後意見交換を行ったが、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした競技力向上事業についての意見が多かった。オリンピック出場へのハードルは高いが、子ども達が夢を育んだり、高い目標を持って取り組む姿勢を養うことは大変重要であるということで、開催を契機として、本市競技レベルが、より一層高まるよう取り組んでほし

いとの意見がでた。併せて、障害者へのスポーツ振興も重要であるということで、まだまだ環境が整っているとは言えない状況であるため、まずは、障害者スポーツの市民理解の広がりや、障害者のスポーツ参加拡大のための取組みが必要との意見をいただいた。子ども達のスポーツ環境作りについては、児童生徒の興味関心に応じたスポーツ活動環境を整えるためにも、総合型地域スポーツクラブなど、学校と地域とが連携していく必要があり、そうした取組みに対する行政のサポートもしっかりとしてほしいとの意見もあった。引き続き審議会の中でも、子ども達のスポーツ環境作りについての議論を行っていくことを確認した。報告は以上である。

(加藤教育長) 東京オリンピック・パラリンピックに、長岡から1人は代表選手が出るのではないかと考えている。もしそうなれば素晴らしいし、名誉なことである。また、これだけ東京からも近く、スポーツ施設も整いつつあるので、各国の事前合宿やオリンピック期間中の招致をがんばってほしいと思う。東京だけが、潤うということで終わってはいけない。悠久山プールは記録のでやすいプールであり、ニュータウンのサッカー場も整備された。それをしっかりPRするべきである。また、審議会で出された意見として、小学校の頃はスポーツ少年団で活動しても、中学生になると希望する種目の部活動が無いというものがある。これに対しては、教育委員会にも、保護者から強い要望が来ている。地域スポーツクラブなどと連携する中で実現できることをしっかり行ってほしい。

(大橋委員長) 最後に、子ども家庭課から、3件報告事項がある。

(波多子ども家庭課長) 1つ目は、長岡市子育て・育ち“あい”プランについてである。3月に本編について説明をさせていただいたが、本日は概要版を配布しているため、ご覧いただきたい。2つ目に、虐待防止パンフレットを2種類配布した。1種類目は教職員向けに作成した。4、5年前に学校を回る中で配布をしたが、学校から、1度の配布で終わりにしないでほしいとの要望があり作成したものである。全ての学校に配布する。2種類目は、児童虐待の予防は妊娠期からということで、切れ目のない支援の一環として、妊娠期間の支援が非常に大切になってくるため、

このパンフレットを医療機関や、主任児童員、赤ちゃん訪問に携わる方々に配布したいと考えている。最後に、母子保健推進員協議会の活動だよりを配布した。中村委員が編集委員を務めている。ご一読いただきたい。

(中村委員) 昨年度から、写真をカラーにさせていただいたので、見やすくなった。手書きのため、個性的な活動だよりになったので是非読んでいただきたい。気づいたことや、今後の母子保健推進員の活動にご意見を寄せていただきたい。

(大橋委員長) 他に、質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 話題は変わるが、4月21日に、学力・学習状況調査があった。まだ、分析までは行かないと思うが、どのような状況だったか、報告いただきたい。

(山之内学校教育課主幹兼管理指導主事) 全小・中学校で実施された。今年度は理科が入ってきたが、複式学級のAB年度方式を採用している学校で、6年生の学習内容を先に学習し、5年生の学習内容がまだだったという学校もあった。このような学校については、理科は実施しておらず、このことについては保護者にも説明を行った。これに該当した学校は4校である。調査の結果については、8月に結果がでる予定で、内容については、昨年度と比べ考える力の求められるものであった。現在、各教科担当で内容の分析を行っているところである。次回、詳しい報告をする予定である。

(大橋委員長) 他に、報告事項はないか。

---

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員